



笑顔発信! おおまき小



令和7年度がスタートしました

8日（火）に始業式、9日（水）に入学式を挙行し24名の新1年生を迎え、全校児童127名、教職員24名で令和7年度の教育活動がスタートしました。

初日の8日には登校し、教務室前を通る子どもたちが入り口から元気に「おはようございます！」と笑顔であいさつをしてくれました。「えがおいっぱい やるきいっぱい」の子どもたちです。

今年度も、おおまき小学校は地域の伝統を確かに受け継ぎながら、様々な教育活動を進め、地域とともに歩む学校づくりをしていきます。

地域・保護者の皆様からご支援・ご協力いただきながら、子どもたち一人一人が自分のよさを発揮し、互いのよさを認め合うことで、健やかに成長していけるよう職員一同、努力してまいります。ご相談等がありましたら、お気軽にご連絡ください。



7年度のおおまき小職員です

校長	N. T	6年生担任	Y. K	学校支援員	M. H
教頭	I. K	ひかり1組担任	T. M	学校支援員	I. M
教務主任	A. K	ひかり2組担任	M. A	ALT	T. R
1年生担任	N. D	理科専科	K. R	図書館事務員	K. A
2年生担任	Y. A	ひだまり教室担当	C. M	ICT支援員	T. Y
3年生担任	A. E	養護教諭	I. M	スクールカウンセラー	H. M
4年生担任	K. S	事務主任	I. M	初任研指導員	S. S
5年生担任	T. K	校務員	O. Y	スクールサポートスタッフ	Y. Y

天才を育てた親たちのルール

メジャーリーガーの大谷選手ら多くの「超一流選手」の親を取材し、書籍『天才を作る親たちのルール』を著したスポーツライターの吉井妙子氏は、「両親たちの姿勢には共通点がある」と語っています。以下に一部、抜粋したものを紹介します。

両親たちの共通点。それは、頭ごなしに怒らないこと、そして子供の考えを否定しないことだ。『なぜできないのか』『お前はダメだ』と言われた瞬間、子供は強烈なコンプレックスを植え付けられてしまう。その二つを『しない』ことが、子供たちの個性を大きく育てている。

〈昔の親は何をしてやろうかと考えた。けれど今の親の愛情は『何をしないか』を考えなければならない〉と'07年に亡くなった教育心理学者・河合隼雄氏も、著書の中で書き残している。

「やりたいことを楽しくやらせる」がモットーだった**大谷翔平の父・徹さん**は、息子に「野球の練習をしろ」と注意することは一切なかった。楽しく野球をやらせる…。それは、朝から晩まで父とバッティングセンターにこもっていたイチローのような、一昔前のプロ野球選手とは異なる意識だ。

「160kmを投げる」、「メジャーに行く」など、大谷は、幼い頃から大それた目標を、臆することなく口にしてきた。この背景にも、「子供が思ったことを大人の顔色を窺わずに言えるように」と願う両親の深慮がある。徹さんと母・加代子さんは、大谷が小さい頃に一つの誓いを立てた。それが、「**子供の前で絶対に夫婦喧嘩をしないこと**」だった。

親が喧嘩をすれば、居心地が悪くなり、顔色を窺うようになる。両親は家庭の雰囲気をついつも朗らかにして、子供たちが話したいことをなんでも話せる空気を作っていた。おかげで、大谷は反抗期もなく、中学2年生までお父さんとお風呂に入っていたそうである。

練習の無理強いはず、家庭は明るい雰囲気を保つ。これは、**女子ゴルフの洪野日向子**の家も同じだ。

洪野の父・悟さんは、こう答えている。

『練習行くか？』と聞いて、本人が気乗りしていない様子のときは、『今日はやめとくか』と何もさせなかった。ケツを叩いて『練習に行け！』みたいに言ったことは、一度もありません。』

ゴルフは、経験のある父親が子供のスイングの指導やコーチ選びにまで口を出すケースが多い。だが、洪野家の場合、悟さんはコーチの指導に一切介入しなかった。

「指導者に習ったことと別のことを家で教えたら、子供は必ず混乱して、上達が遅くなってしまう。だから、子供が習ってきたことには一切口出しはしません」と悟さんは語っている。

元プロテニスプレーヤー杉山愛の母の杉山美沙子氏が言う。

「大人だって、同僚や知り合いと比較され、『〇〇より劣っている』と言われたら、とても嫌な気持ちになります。それなのに**子供のことはつい比べてしまう**。『あの家の子はスポーツもできて成績も良くてうらやましい』などと言われたら、**子供の自尊心は深く傷つきます**。親は、自分の子の可能性を誰よりも信じる『最後の砦』でなければならない。これは多くの『超一流』の親たちに共通しています。」

超一流を育てた親があえてやらなかったこと。そこから学べることは少なくない。

学校HP 毎日更新中です

こちらのQRコードから ↓



「えがおいっぱい やるきいっぱい」で授業や行事を始めとした様々な活動に取り組んでいる子どもたちの様子や学校の取組等については学校HP「学校日記」をご覧ください。